# 令和7年用りんご病害虫防除基準

			収 穫 前	総使用	10a当たり	注		
散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	使用日数	回数	散布量		(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
へ 発 芽 展	ハ ダ ニ 類 (カイガラムシ類)	1. 水 (99ℓ) 2. ハーベストオイル 100倍 (1ℓ)	展 葉 期 (発芽後2週間まで)	_			モモチョッキリゾウムシが多い園は、マブリックEW®2,000倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。 ハーベストオイルに替えてスプレーオイル100倍(展葉期(発芽後2週間まで)、一)	散布日
10 葉 黒 <sup>日</sup> 初	モニリア病 腐らん病 黒 星 病	3. ベフラン液剤25劇 1,000倍(100 <i>ml</i> )	展 葉 期	6 回以内	350 @	3.	を使用してもよい。 ベフラン液剤25®は西洋梨に薬害を生じるおそれがあるので、かからないよう注	月 日 散布量 ℓ
後)期		4. アプロードフロアブル 1,000倍(100 <i>m</i> ℓ)	30 日 前 ま で	2 回以内			意する。	
特別	黒 星 病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花前まで	2回以内	350 €	1.	ストライド顆粒水和剤に替えて、ICボルドー412 30倍(-、-)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 <i>Q</i>
2	褐 斑 病 斑 点 落 葉 病 黒 点 病	1. トレノックスフロアブル 500倍(200 <i>ml</i> )	30 日 前 ま で	5 回以内		1.	摘花剤としてエコルーキー 100~150倍 (満開日、追加散布を要する場合は2~3日後に1回、2回以内)を単用で使用できる。	
開花直	黒星病病病病病病病病病病病病病病病病病	2.カナメフロアブル® 4,000倍(25 <i>m</i> ℓ)	前日まで	3 回以内	400 @	2.	シンクイムシ類の発生の多い園では、4 月下旬にコンフューザーNを150~200本 /10a設置する(下記「交信かく乱剤」参 照)。	散布日 月 日 散布量 <i>Q</i>
<b>前</b>	ハマキムシ 類ケ ム シ 類	3. サムコルフロアブル10 5,000倍 (20me)	削日まで	3回以内		-		
③ 落	黒 星 病 黒 点 病 褐 斑 病	1.ペンコゼブ水和剤 500倍(200g)	30 日 前 ま で	3 回以内		1.	摘果剤として、ミクロデナポン水和剤85® 1,200倍 (満開後 1 ~ 4 週間、 2 回以内) を使用できる。	#6-6- [7]
重花	黒 星 病	2. ミギワ20フロアブル 4,000倍(25 <i>ml</i> ) 3. ウララDF	前日まで 14 日 前	3 回以内	500 <i>e</i>	2.	品種などを確認のうえ散布すること。 クレフノンに替えて、バイカルティ1,000 倍を使用してもよい。	散布量
直後	アブラムシ類	2,000倍(50g) 4. クレフノン	まで	2回以内				e
占 4	黒 星 病 黒 点 病	100倍 (1 kg) 1. デランフロアブル®		3 回以内				
落	褐 斑 病 うどんこ病 モニリア病	2,000倍 (50㎡)	ま で 14 日 前	3 回以内				散布日
花 10	斑 点 落 葉 病 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ	3. ダントン水冷剤	おので	3 回以内	600 €			月 日 散布量 <i>Q</i>
<b>防</b> 日 後	リンゴワタムシ	2,000倍(50g) 4.クレフノン 100倍(1 kg)						
5	黒 星 病 黒 点 病 褐 斑 病	1.ペンコゼブ水和剤 500倍(200g)	30 日 前 ま で	3 回以内		1.	この時期は毛ぶるい期に入り、サビ果が出 やすいので、乾きやすい時間帯に散布す る。	
落 <b>除</b> 花		2. ポリオキシンAL水和剤 1,000倍 (100g)	3 日 前 ま で	3 回以内	600 €		クレフノンに替えて、バイカルティ1,000 倍を使用してもよい。 アブラムシ類、リンゴワタムシの発生してい	散布日 月 日
20 日	シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ ア ブ ラ ム シ 類	3. サイハロン水和剤劇 2, 000倍(50g)	7 日 前 ま で	3 回以内		0.	る園ではトランスフォームフロアブル2,000倍 (前日まで、3回以内)を散布する。	散布量
後		4. クレフノン 100倍(1 kg)						
<ul><li>6</li><li>6</li></ul>	炭 そ 病 黒 星 病 黒 点 病	1. デランフロアブル劇 2,000倍(50 <i>m</i> ℓ)	60 日 前 ま で	3 回以内		1.	腐らん病対策として摘果痕からの感染を 防止するため、摘果後(6月中)にトッ プジンM水和剤1,500倍(前日まで、6回 以内)またはベンレート水和剤2,000倍	
月	斑 点 落 葉 病褐 斑 病	2. パレード15フロアブル 2,000倍(50 <i>ml</i> )	前日まで	2回以内	- 600 <i>Q</i>	2.	(前日まで、4回以内)を枝幹部にも十分かかるよう散布する。 ヒメボクトウの発生が多い園では6月上	散布日月日
10	アブラムシ 類 カイガラムシ類 ハ ダ ニ 類	3. モベントフロアブル 2,000倍(50 <i>ml</i> )	14 日 前 ま で	3 回以内		3.	旬にボクトウコン-Hを100~150本/10a 設置する。なお、3年以上連続して使用す ることで効果が安定する。 極早生品種のある園では、デランフロア	散布量 ℓ
頃		4. バイカルティ 1, 000倍(100g)					ブルに替えてペンコゼブ水和剤500倍 (30 日前まで、3回以内)を使用してもよい。	
⑦ 6	斑点菜病病       褐黑星病病       輪紋病	1.パスポート顆粒水和剤 1,000倍(100g)	45 日 前 ま で	3 回以内		1.	殺ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。除草剤を使用する場合は殺ダニ剤散布の1週間前までに終わらせる。	116.2
月 20	シンクイムシ類 キンモンホソガ	2. エクシレルSE 5,000倍(25ml)	前日まで	3 回以内	600 <i>Q</i>			散布日 月 日 散布量
日	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍(50 <i>m</i> ℓ) 4. バイカルティ	前日まで	1 🗓				e
頃		4. ハイカルディ 1,000倍(100g)						

### 耕種的防除

「「生口リ	M) M	K	
	般	3.	適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達 しやすいようにする。 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に 粗皮削りを行なう。
そ紋	病病	2.	園周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
星	病	1.	発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシマルカイガラムシ		1.	園周辺の雑木は、寄種(伝染源)になるので除去する。
	そ紋星	般 そ 病病 粒 病 星 病	2. 3. そ 病 1. 紋 病 2. 3. 星 病 1.

## りんご施肥基準(成木:10a 当たり)

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	Р	K	
つがる (3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	60~80kg	9月下旬	3.6~4.8	1.8~2.4	1.2~1.6	
ふ じ (3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	40~80kg	10月上中旬	2.4~4.8	1.2~2.4	0.8~1.6	l

#### 落果防止剤の使用について

落果	:防止剤		使用時	注意事項	
ストッポール液剤	1,500倍	2 回以内	収穫開始予定	25~7日前	単用で散布する。
ヒオモン水溶剤	2,000倍	2回以内	収穫開始予定	21~4日前	単用で散布する。

#### 交信かく乱剤 (シンクイムシ・ヒメボクトウ対策)

~ IH# THU	711 17 7 7	
対象病害虫	薬剤名	使 用 方 法
	コンフューザー N	4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	する。
ヒメボクトウ	ボクトウコン- H	6月上旬に100~150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。

- 1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に
- 1. 設置場所は、日通りの同さにも耐、2間 設置する。 2. 傾斜上部の設置割合を1~2割多くする。 3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。 4. 防風ネットなどを利用する。

- 5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

# 発 行: JAさがえ西村山・さがえ西村山りんご部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収 穫 前使用日数	総使用 四 数	10a当たり <b>散布</b> 量	注	意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
8		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100 <i>ml</i> )				1.	ナシヒメシンクイの多い園では7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置す	
7 月	斑 点 落 葉 病褐 斑 病輪 紋 病黒 星 病	2. ツインバリアー水和剤 1,000倍(100g)	前日まで	3 回以内	600 <i>Q</i>	2.	る。 ヒメボクトウの被害がみられる園では、 7月上旬頃フェニックスフロアブル4,000 倍(前日まで、2回以内)を枝幹部に十 分かかるようていねいに散布する。また、	散布日月日
上	炭 そ 病 シンクイムシ類 リンゴワタムシ	3. ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで	3 回以内			ロビンフッド(前日まで、5回以内)を 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み 噴射する。	散布量
旬		4. バイカルティ 1,000倍(100g)				3.	ツインパリアー水和剤に替えてナリアW DG2,000倍(前日まで、3回以内)を使 用してもよい。	
9		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100 <i>m2</i> )				1.	相びにもよい。 褐斑病が多い園は、ICボルドー412 30 倍(-、-) を使用してもよい。ICボル	
7	斑褐黒輪黒 歳 編 黒 歳	2. オキシンドー水和剤80 1, 200倍(83g)	14 日 前 ま で	4 回以内			ドー412を使用する際は、単剤で展着剤は加用しない。 降雨が続いた場合、オキシンドー水和剤801,200倍(14日前まで、4回以内)を追加で散布する。 西洋梨隣接園では、サイアノックス水和	散布日
月	褐 斑 病	3. ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 (50g)	14 日 前 ま で	4 回以内	600 €		剤に替えて、オリオン水和剤40 1,000倍 (前日まで、2回以内)を使用してもよい。 散布の際は褐斑病防除の為に防除間隔を	月 日 散布量 ℓ
中	シンクイムシ類 ハマキムシ 類 カ メ ム シ 類 アブラムシ 類	4. サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	14 日 前 ま で	1 🗓		4.	取布の際は楢斑柄防原の為に防除間隔を 10日以上空けないようにする。	
旬		5. バイカルティ 1,000倍(100g)						
(10)	品種ごと	1. 展着剤(アビオン-E)	を考慮	し、名	楽剤	1.	収穫前使用日数を厳守する。 ビターピット対策として、バイカルティ	
7	斑 点 落 葉 病 褐 斑 病 黒 点 病 輪 紋 病	1,000倍(100 <i>ml</i> ) 2.オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	14 日 前 ま で	4 回以内			1,000倍を加用してもよい。 極早生に使用する場合は、収穫前使用日数に注意する。または、オキシンドー水 和剤80に替えて、オーソサイド水和剤80 800倍(前日まで、6回以内)を使用し	散布日
月	黒 星 病 炭 そ 病				600 @	日	てもよい。 やけ軽減としてサンバリア1,000倍を葉摘 ・玉回し前に使用してもよい。	月日 散布量
下	褐 斑 病シンクイムシ類	3. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50 <i>ml</i> )	7 日 前 ま で	3回以内		9	・玉回し前に使用してもよい。	V.
旬	カ メ ム シ 類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	4. モスピラン顆粒水溶剤像 2,000倍 (50g)	前日まで	3 回以内				
特		1.展着剤(アビオン−E) 1,000倍 (100 <i>mℓ</i> )				1.	降雨が続く場合は追加で散布する。	散布日
別	斑褐黒輪黒炭	2. オキシンドー水和剤80 1, 200倍(83g)	14 日 前 ま で	4 回以内	600 @			月日散布量 0
(II) 8	斑褐すす炭輪 など を終れる ない ない ない ない ない はい ない はい	1. ダイパワー水和剤 1,000倍(100g)	前日まで	開花期以降3回以内		į	ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。       薬剤名 <sup>る釈倍率</sup> 収穫前 総使用 使用時期 使用日数 回数 7月 8月 マイトフロアブル 2,000倍 前日まで 1 回 〇	散布日月日
上	キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 (ギンモンハモグリガ)	2.アグロスリン水和剤® 1,000倍 (100g)	前日まで	2 回以内	600 @	カネ	マイトフロアブル     1,000倍     7     日前で     1回       イト水和剤     750倍     まで     1回       2,000倍     前日まで     一〇       ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果が無く、	散布量 0
旬	ハダニ類	3. コロマイト乳剤 1,000倍(100 <i>ml</i> )	前日まで	1 回		アカ	リタッチ乳剤 残効性も期待できないので、5~7日 間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。	
⑫ 8 月	斑輪すす黒炭素病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病	1 . ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	前日まで	4 回以内	600 <i>Q</i>	3.	りんごの落果防止剤として、ストッポール液剤及びヒオモン水溶剤が使用できる(下記参照)。 ビターピット対策として、ストピットII 500倍を8月上旬以降2~3回加用散布してもよい。 ファンタジスタ顆粒水和剤に替えてフリ	散布日 月 日 散布量
中旬	シンクイムシ類 (キンモンホソガ)	2. バリアード顆粒水和剤® 2,000倍 (50g)	前日まで	3 回以内		4.	ントフロアブル25 2,000倍(前日まで、3 回以内)を使用してもよい。	e
5 <sup>(3)</sup> 9 8 月 月 上 下	斑点 葉病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍(100g)	前日まで	開花期以降3回以内	600 <i>Q</i>	1.	リンゴワタムシ対策として、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 <i>Q</i>
旬旬	シンクイムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍(50 <i>ml</i> )	前日まで	2回以内				
④ 9 月 中	斑点落葉病病病病病褐 数 点 病病病病病病病病ナ す す ま 表 病病病病病	1. オーソサイド水和剤80 800倍(125g)	前日まで	6 回以内	600 <i>Q</i>	1.	スカウトフロアブルに替えて、ロディー水和剤1,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 <i>Q</i>
旬	シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル劇 2,000倍(50 <i>ml</i> )	前日まで	5 回以内			京温味のサイル英中の名のパンフェー	
\$ 10 9 月 上 旬	褐斑病すす斑病表病点星病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から 前日まで	3 回以内	600 @	1.	高温時の散布は薬害の危険があるので、気 温の低い時に散布する。	散布日 月 日 散布量 <i>Q</i>